

平和と正義

今 泉 信 宏

この夏久しぶりに広島に行く機会がありました。平和記念公園を歩き、原爆資料館へも足を運びしばらく様々な資料を見ながら平和とは何かということを考えました。原爆ドーム前で多くの女子学生たちが「peace sign」をしてにこにこ顔で写真を撮っていました。現在の日本では年中行事の一環として平和宣言をしています。小学生も宣誓をしたりしていました。これも大切なことです。戦争を二度と起こさないというコミットメントを年に一度だけではなく、毎日の生活の場で自己中心主義に落ちることなく他の人や国のことを思いやることも平和につながるのです。通常我々の多くは平和を単独的に考えがちですが、実は平和は正義と対で考える必要があります。豊かな国が貧しい国や国民を搾取している。フィリピン産のパイナップルひとつにしても、あるいはパンの一切れであっても、その工程で多くの者が搾取されているという現実には眼をつぶってはならない。讚美歌424番(21)に以下の言葉が記されています。「むさぼりの心が正義を踏みじり、貧しい人々の大地を取り上げる。よろこびの歌声涙に変わり果て、緑のこの土地は灰色に変わる。種まく者が飢え、刈り取る者が瘡せ、つむぐ者が震え、むさぼる者が富む。ためいきの大地を神は見過ごさない。この大地すべてはみんなのもちもの。」これは私がエコハピタットの学生を毎年連れて行くフィリピンのDumagueteでつくられたものです。この言葉を聞いて皆はどう思いますか？世界平和を祈る前に、己の自己中心性を少しでも変えなければ「平和」の樹立は不可能でしょう。しかし私を含めて人間はみな自己中心的です。人よりも豊かになりたい、人よりも更により生活をしたいという願望や欲望はだれにもあります。それがあつ限り世界平和はありえない。でもあきらめてしまうのではなく、この私にできることがあるのかどうかを模索していく努力が大切ではないでしょうか。上の言葉を聞き流してしまうのではなく、内面化するために自分は何をなすべきか。これが求められているのです。この機会に共に平和と正義を考えてみようではありませんか。

(総合政策学部 宗教主事)